

他人事じゃない、近い将来のこと

小樽市立松ヶ枝中学校 二年 西野 結愛

私にとって税金とは、あまり身近なものではないように感じていました。勿論、私が普段使っている教科書、通学路として歩く歩道、私達中学生の病院の受診が無償であること、全て税金のおかげであることは知っています。それでもどこことなく、「税金は、大人が払う難しくて重いもの」だと考えていたのです。しかし、一体何が「難しく」て、何が「重い」のか、私はよくわかっていませんでした。

あるとき、税金について調べていると、将来に若者が高齢者を支えきれなくなるという記事を見かけました。私は地理で学んだ少子高齢化の話を思い出し、安直に考えました。「今の若い人が支えきれなくなるなら、子育て世代の人を応援してあげればいいんじゃないの、税金でさ。」そう母に言うと、予想もしない答えが返ってきたのです。「あのね、子育て世代の人ばかりにお金をあげていたら、子育てしない人たちから不満がでるんだよ。」私はその時、初めて税金というものの「難しさ」に気付けたような気がしました。その後、母から興味深い話をたくさん聞かせてもらいました。所得によって税率が変わること。低所得の場合は高校の授業料が免除されること。これは私にも関係のある話です。最初こそ、一生懸命働いている人たちが税率が高いなんて理不尽だ、と思っていました。けれど、収入を多く得ている人が、多くの税金を納めることで、低所得の人たちでも公共サービスを受けることが出来ます。税金は、格差をなくし、「公平」を実現するためのものなのです。私は、税金がなると色々なことが有料になってしまいうな程度認識でしたが、同時に日本各地の格差を広げることにも繋がっていたのを知りました。

税金を納めることは、勤労と教育と並び、国民の三大義務の一つとされています。今は物価高の影響もあり、ある程度の金額をずっと納め続けるのはとても難しいことです。しかし、義務である以上、それをなんとかやっていくのが国民の役割です。

しかし、そうして納められた税金が、本来の目的以外に使われてしまうことが度々あります。税金の本来の役割は、国や地方公共団体が公的サービスを行う、つまり国民のために使われるはずであるのに、特定の人だけがそれ以外に使うのは不公平な話ではありませんか。

私はまだ中学生ですが、成人したらしっかり働きたいと思っています。自分たちの生きる未来は、自分たちで責任をとってつくっていくべきです。それは、未来の私のためであり、もつと遠い未来の人々のためでもあります。先の人々がそうしてきたように、私たちは「税金」というものを通して、きっと知らない誰かを助けられているはずです。今よりも明るい未来になることを願っています。